

2010年 佐久病院この1年

* 佐久病院で県内初（国内85例目）の「臓器の移植に関する法律」に基づく脳死判定がされ、日本臓器移植ネットワークのコーディネートにより全国の5病院で移植手術が実施される。

（1月）

* 複数の関連施設をもつ事業所の円滑な運営をすることを目的として、長野県厚生連による統括事業所（統括院長）制度が導入される。これにより佐久総合病院が統括事業所に指定され、統括院長に夏川周介前院長が就任し、新しい院長に伊澤敏前副院長が就任する。

（4月）



当院で脳死判定後臓器抽出、搬送される（1月4日）

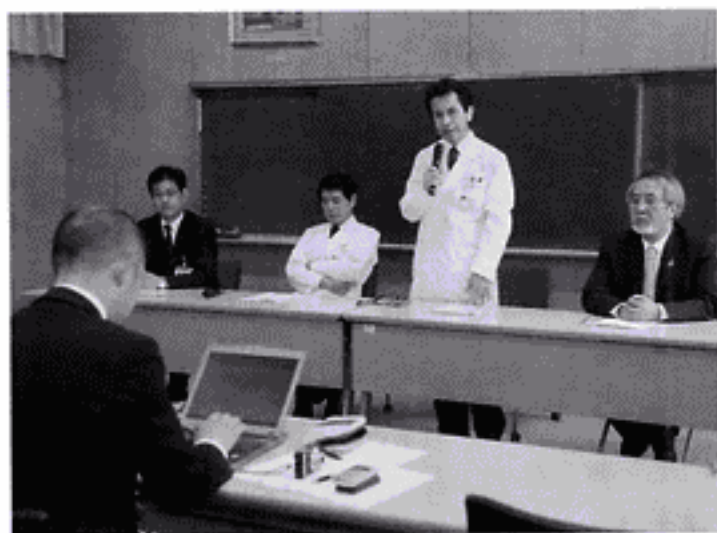
* 若月俊一先生生誕100年を記念して地元住民グループ42団体（佐久病院含）が参加した「若月俊一先生生誕100年記念事業実行委員会」が組織され「若月イヤー」と称しさまざまな催事が開催される。併せて『信州の風の色』の復刊と若月俊一对話集が出版される。

（通年）

* 「若月先生生誕100年」と「病院再構築」をメインテーマに、第64回病院祭が開催された。「健康なんでも相談」コーナーでは坂戸政彦佐久医師会長と村島隆太郎浅間総合病院院長を招き佐久地域の医療体制等について意見交換がされ、地域医療連携の取り組みが大きく前進する。

（5月）

* 佐久病院再構築に係る医療関係者、住民、工業会との3つの合意が整い調印式が行われる。また、佐久市都市計画審議会において「佐久市都市計画マスタープランの変更（案）」が了承され、建築予定地の用途変更に向け大きく前進す



統括事業所制度記者会見（4月1日）

る。院内では基本設計及び実施設計ヒアリングが進み、（仮称）基幹医療センターの骨格がまとまる。

（通年）

* 第50回の節目となる農村医学夏季大学講座「住民が主役になる保健・医療・福祉とは -若月俊一先生誕100年に問う」が開催され、佐久市コスモホールに連日800人を超える受講者が集まる。

（7月）

* 第60回の節目となるJA長野厚生連体育大会が佐久病院の当番で開催される。記念大会を祝して8年振りに前夜祭が復活するなど、野球・バレー・卓球の競技をとおして厚生連体育大会の意義と歴史を振り返る。

（7月）



若月俊一先生生誕100年記念事業
若月俊一先生に学ぶ映像と講演の会

井出民生実行委員長のあいさつ（10月24日）

* 夏川周介統括院長を大会長として、「第36回日本診療情報管理学会学術大会」が「医療変革期における診療情報管理」と題して長野市で開催される。演題は過去最高の227題となり、2日間で延べ3,800人余が参加する。

（9月）

* JA長野厚生連佐久総合病院看護専門学校（昭

和35年開設)が創立50周年を迎える。ここで学んだ卒業生は4,077人で長野県厚生連病院の看護師の約半数を占める。記念誌『50年のあゆみ』を作成し建学の志を次の50年に向けて継承する。また、3月には同校の2年課程第二科(卒業生1,360人)が41年間の歴史に幕を閉じる。

(9月)

- *第62回「保健文化賞」を夏川周介統括院長が受賞する。保健衛生の分野ですぐれた業績を挙げた団体あるいは個人に対して贈られるこの分野で最も権威ある賞として評価され、厚生労働大臣から表彰状を贈呈される。また、職員・OBを中心に祝賀会が開催される。(10月)

ロックソランを踊る佐久病院職員(7月17日)



- *日本看護協会による専門看護師及び認定看護師の資格取得が進み、看護師の専門性と質の向上が年々高まる。特に「小児看護専門看護師」は長野県で初めてとなり、認定看護師も各分野で14人となる。(通年)

- *5西病棟QCサークル「ピクト工務店」が第12回フォーラム「医療の改善活動」全国大会(名古屋市)で「優秀賞」を受賞する。また、第5241回QCサークル長野地区大会では「長野県知事賞」を受賞し、関東支部改善事例チャンピオン大会へ推薦される。(10月・11月)

- *平成13年に開設した「佐久総合病院老人保健施設こうみ」と「佐久総合病院美里分院」が10周年を迎える。老健こうみでは10周年を記念して式典と祝賀会が開催されるとともに、記念誌が発行される。老健こうみは南佐久南部5カ町村

の要請を受けて来年度の増床計画が決まる。

(11月)

- *佐久病院労組の劇団部による上演が、通年企画で開催される。7月の農村医学夏季大学講座、9月の日本診療情報管理学会学術大会で「ほけん証」を、11月の信濃毎日新聞「私の声」の集いでは「志願兵」を上演する。(通年)



日本クリニクラウン協会事務局長・塚原成幸氏による記念講演(9月4日)

- *天皇杯・皇后杯「平成22年度全日本卓球選手権大会」長野県予選において、女子卓球部の井上朋美がシングルス・混合ダブルスの2種目を制覇し全国大会出場を決める。シングルス県チャンピオンは卓球部始まって以来の快挙となり、全日本社会人卓球選手権でも3回戦まで進出する。(11月)



清水茂文老健こうみ施設長によるあいさつ(11月24日)